

1 学校教育目標
校訓「通潤魂」(豊かな心、勤労の喜び、創造の喜び、不屈の意志)を柱として、三綱領「誠実にして 礼節を重んずる」「勤労を尚び 自立を目指す」「創造の喜びを求め 不屈の意志を培う」を実践する。
2 本年度の重点目標
<p>「山の都でキラリと輝く宝石を磨く」 (矢部高校と矢部高生をさらにキラリと輝く宝石へと地域とともに磨き上げる)</p> <p>個に応じた指導、探究的な学びの充実等により確かな学力と高い専門性を習得する。地域との協働による取組をさらに発展させ、地域の担い手としての資質や能力を育み、将来の地域振興の核となる人間力を持つ人材を育成する。</p> <p>①生徒を磨く：確かな学力と専門性の習得、進路学習の深化、探究的な学びの充実、特別活動等の取組による人間力の向上</p> <p>②先生が磨く：授業改善と学習評価の工夫、ICTの有効活用、働き方改革の実践、個に応じた指導の充実による進路目標の実現</p> <p>③地域と磨く：地域との協働による取組のさらなる発展、情報発信による連携強化</p>

3 自己評価総括表		A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である				
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校目標の共有	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底	年度末学校評価アンケートで各評価者の平均値4.0以上を目指す。	全校集会、学年集会、育友会総会、学校HP等で説明及び情報発信する。	A	評価平均値は3.95と第1回より上昇し、目標にかなり近づいた。HPやSNSでの教育活動の発信が認知されてきている。
	職員の資質向上	学校改革による業務改善及び校内研修の充実と研修等へ積極的な奨励及び育成	校務分掌の活性化とリーダーの育成	各担当業務における具体的目標の設定とその進捗状況の把握	B	主任・主事のリーダーシップのもと、校務分掌ごとに目標を設定し、業務の改善、活性化が図られた。学習評価について、集約を図った。
	働き方改革の推進	業務の整理や効率化による教職員のワーク・ライフ・バランスの実現	時間外在校時間が月45時間を超える教職員を月平均10人以下とすることを目指す。職員のメンタルケア。	朝会、職員会議、職員研修の精選、効率化、Bearsメール連絡と業務改善によって、生徒と向き合う時間を確保するようにする。日々の声掛けと職員面談の実施	B	月45時間以上は月平均9.2人と目標はクリアできたが、昨年度より少し増えた。Bears、Gmailや端末も利用し、会議等縮減につながるように効率化を図った。小まめな声掛けを行い、早め早めの面談を行った。
	危機管理体制の強化	危機管理意識の向上と的確な対応	危機管理マニュアルの点検・見直し及び危機管理訓練の実施	実験・実習・体育・行事における想定及び事前指導の徹底	A	危機管理マニュアルの点検・見直しを行い、危機管理を適正に行った。防災避難訓練は、土砂災害も含めて

		学校管理下の事故未然防止の取組	実験・実習・体育・行事などでの事故「0」を目指す。年度末学校評価アンケート（環境整備関係）で各評価者の平均値4.0を目指す。	定期的に劇物・薬物の保管管理状況の点検、施設・設備の点検を実施する。	B	、各方面と連携して行った。 環境整備関係の評価平均値は3.73と目標には届かなかった。実習等での事故が、1件あったが、適切に対応できた。
学力向上	基礎学力の向上	学校全体での個に応じた指導の徹底	授業に臨む姿勢や理解度に応じた授業に関する生徒の項目で平均値4.0を目指す。	授業の時間厳守や与えられた課題の提出の徹底。また、個に応じた放課後等の指導や課題の充実	B	具体的方策にあげていることは概ね達成することができた。しかし、目標とする数値にはほんのわずかではあるが到達できなかった。
	わかる授業の創造	生徒の実態にあった教科指導力の向上	新学習指導要領を見据えた、授業改善に取り組むために公開授業を実施する。年度末学校評価アンケートで職員の授業研鑽に関する項目で平均値4.0を目指す。	・公開授業日の実施 ・教育相談部との連携で授業のUD化を推進する。 ・新学習指導要領を見据えた評価方法の検討。 ・1人1台端末を効果的に活用した授業を実践する。	A	具体的方策にあげていることは概ね達成することができた。目標の数値も達成することができた。
	朝読書の充実	全職員での読書指導の継続	・10分間の黙読の徹底 ・一人当たり年間冊数を増やす。	・朝読書の推進・継続。	A	黙読の徹底ができた。また、貸出冊数も年間で12.7冊と昨年より2冊弱増やすことができた。
キャリア教育（進路指導）	将来を見通したキャリア教育の充実	適確な自己分析と適正な進路選択	・キャリアパスポート活用とキャリアプランニング能力の育成 ・進学目標実現	・系統別進路学習 ・進路ガイダンス ・進路・成績検討会 ・進学目標実現への個別受験対策充実	B	・キャリアパスポート活用し、振り返りができ、生徒の自己理解に役立った。 ・成績・進路検討会は進路指導に有効であった。個別の受験指導も順調である。コロナ禍のため、進路ガイダンスが十分に実施できなかった。
	就職指導の充実と進路保障の実現	適正な自己理解と職業選択	就職内定100%達成 早期離職率低下	・担任とキャリアサポーターとの連携 ・事前職場見学推進 ・就職試験に対する個人指導の充実	A	各生徒の就職希望に対して、キャリアサポーター・進路・担任の連携が円滑にとれ、希望どおりの内定をいただいた。公務員も良好な結果だった。

生徒指導	基本的なマナーの徹底	進学・就職へ向けた意識の向上	面接試験に通用する整容、挨拶の励行を進め、年度末学校評価アンケートで各評価者の平均値4.2を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・服装・頭髪検査年6回実施。日常的に全職員で取り組む。 ・挨拶運動、登校指導の実施。集会等での実践。 	B	・平均値は4.19と概ね目標値となった。今年度生徒の服装や頭髪の大きな乱れはなかった。校則の見直しについて、生徒や保護者、職員へのアンケートを実施し、見直しを進めている。
	交通安全教育の充実	全人教育としての交通安全教育の充実	交通事故・違反0とともに、年度末学校評価アンケートで各評価者の平均値4.0を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導、安全点検実施、交通安全教室、新規免許取得者講習、交通事故・違反者指導の実施。 	B	事故は右折巻き込まれて1件、転倒などの自損5件であった。違反は0件であった。コロナ禍で新規免許取得者講習が遅れ、違反者指導等が十分に実施できなかった。
人権教育の推進	自他の命を大切に、差別を見抜き許さずなくす行動ができる生徒の育成	人権教育の内容の充実 命を大切にす る心を育む指 導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・授業検討会議の実施 ・各学年年間5回分の教材を作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRの授業内容の精選と教材研究を進める。 ・研究授業による指導力向上に取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部内や学年で授業内容について協議しながら進めることができた。 ・多様化する人権問題に対してさらなる内容の精選が必要である。
		職員研修の充実	年1回の講演会の実施と年5回の研修を実施	職員の共通理解と認識を高める。	B	・予定していた研修については実施できた。
いじめの防止等	いじめの「未然防止」及び「早期発見」	全ての生徒が安全・安心に学校生活を送り、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人が自己有用感を持つことができる授業、学校を目指す。 ・いじめは起きるものと認識し、早期発見、未然防止のための手立てを行う。 ・年度末学校評価アンケートで各評価者の平均値4.0を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実を図る。 ・規律ある学校生活を送るため、授業の充実、生徒指導の充実を図る。 ・2者面談・アンケート等を定期的に実施する。 ・登校指導において生徒への積極的な声かけ、観察を行う。 ・各部会での情報共有。 ・防止対策会議の開催。 	B	評価平均値は3.79と第1回目より少し上昇した。コロナ禍もあり、各部との連携のもと生徒の見守りを行ってきた。(全職員による登校指導・声かけ、2者面談、学期毎の心のアンケート、各部会における生徒の情報共有等)。若干のトラブル(いじめ認知は、4件)はあったが、全体的には落ち着いた生活ができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	郷土を愛し・誇りを持つ生徒の育成	地域行事、ボランティアへの参加 「総合的な探究の時間」において地域課	年度末学校評価アンケート(地域連携、防災関係)で各評価者	<ul style="list-style-type: none"> ・八朔祭での造り物製作、ボランティア活動を実施。 ・協議会での 	B	普通科の「総合的な探究の時間」において、地域の協力を得ながら地域課題に関する学習を実施できた。食

	と総合型 コミュ ニ ティ・ス クールの 充実	題に関する学 習を実施 防災教育の充 実	の平均値 4.0 を 目指す。	意見交換を 通して、魅 力ある高校 作りを推進 。 ・合同防災訓 練を実施。		農科学科、林業科 科学科も地域と連携 した取組を継続し て実施できた。 地域行事等への参 加や防災等での地 域との連携につ いては、コロナ 禍の影響で十分に は実施できなかった。
特別支 援教育 (教育 相談含 む)の 推進	特別な支 援を必要 とする生 徒への柔 軟な対応	個の発達に応 じた指導の充 実 職員研修の推 進	職員全体の理解 を深め、指導力 を向上させ、年 度末学校評価ア ンケートで各評 価者の平均値4. 1を目指す。	・生徒の指導 計画を作成 し全職員で 支援する。 ・生徒の理解 と支援のため の研修会 や連絡会を 年に2回以 上実施する 。	B	・評価平均は4.13 で目標値の4.1は達 成できた。 ・予定していた研 修会等は目標通り に実施できたが、 生徒の抱える問題 にさらに適切に対 応できるよう研修 の内容の充実を図 る。

<p>4 学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶指導が出来ており、小学生の見回りの時は、必ず挨拶をしてくれる。 ・やまと令和寮において、先生方にはよく努力してもらっている。今後寮運営の在り方を、地元として考えていかなければならない。 ・中学生保護者から回答が少なかったのも、申し訳ない。ただ、評価は一度上がると下降するものだと思う。コロナが終息し、共に取り組めることが増えれば、高校への関心も更に高まるはずである。 ・地域みらい留学やSNSによる情報発信により、町外・県外の入学者が増加しているのが顕著であり、寮の運営とともに生徒増加につながっている。しかし、町内の入学者が思うように伸びていない。SNS等だけではなく、対面での魅力化を発信していく必要がある。林業科学科や二輪車部など、他にはない魅力をもっと発信。 ・学校の魅力化は、変わったことをするのではなく、授業を改善したり、今ある行事の質を上げたりするほうが大切であり、王道を行くことが魅力化である。Chrome Bookなどを活用した新しい授業へのチャレンジやスタディサプリの導入等。 ・学校の事務作業効率化や行事の精選を行い、全ての仕事が勤務時間内に出来ようとする。 ・学校の魅力化、情報発信に努力されているのが伺える。これからも鋭意努力され、生徒募集の成果に繋げて欲しい。 ・まちづくりへの提案を積極的に行う等、地域に根ざす活動をお願いしたい。 ・SGLH事業、総合的な探究の時間を活用した取組について、身近な課題を題材に取り組みされている。町民に知ってもらいたいし、知る機会を増やすべき。(町民とふれあえる貴重な機会、町も協力したい。) ・みらい留学も定着してきた。オンラインではなく対面であれば、もっと多くの生徒を呼び込めたと思う。 ・地域みらい留学では、生徒が中心になって取り組んでおり、見学者も生徒の声が聞け、より矢部高校の良さが伝わったのではと思う。 ・やまと令和寮も矢部高校の魅力の一つとなるように、地域も関わっていただけらと思う。 ・アンケートの結果から、生徒の学習意欲等が、少し下降傾向にあり、数字だけでは判断できないが、長引くコロナの影響は大きいと思う。 ・学校やクラスの行事、また友人との関係等、コミュニケーションが取りにくい状況となっており、教職員や生徒のモチベーションを上げる環境・カウンセリングや個別相談等のしやすい環境をお願いしたい。
--

5 総合評価

- ・情報発信や本校の魅力については、地元中学校の保護者や地域住民の評価が上がり、積極的な情報発信が少しずつ評価されている。
- ・SDGs 未来都市に認定された山都町の要望に応え、そういう文言をスクールミッションに入れて作成することが出来た。
- ・今年度は学校安全総合支援事業として、防災教育に重点を置いた。避難訓練は、倒壊ブラインド式で行い、土砂避難訓練もあわせて実施した。また、公開授業も行い、避難所運営ラーニングの学習を行った。実施後、各専門家から助言を得て、より実践的に深めた。
- ・全国募集である地域みらい留学は、今年度もオンラインとなったが、去年の経験を生かして実施。本校の地域みらい留学生在が説明することで、実感を持てる内容となり、県外から6名の学校見学があった。直接オンライン説明会には参加していない生徒もいたが、個別に情報を入手して来校。みらい留学に取り組むことで検索等で引っかかりやすくなる。
- ・スーパーグローバルハイスクール事業として、普通科の総合的な探究の時間を活用し、地域の協力を得ながら地域課題に関する学習を充実させることができている。食農科学科や林業科学科も、地域・企業・関係機関としっかり連携した教育活動を行っている。

6 次年度への課題・改善方策

- ・進路指導や防災教育において、学校外からの評価が低く、それぞれの取組の情報発信を強化する。
- ・個々の生徒の状況に応じた教育相談（カウンセリング等）や支援について、目標値を達成した。今後、ストレス対処教育やソーシャルスキルトレーニング等を積極的に取り入れ、問題を未然に防ぐことも進めていく。
- ・地域みらい留学と対であるNPO運営のやまと令和寮を地域とさらに連携して、魅力を発信する。
- ・令和5年度朝課外廃止に向けての移行期間として、新たな教材選択や職員の教科指導力の研鑽を進め、国公立大学進学や公務員就職など幅広い進学希望に対応出来るスキームを構築し、働き方改革を進展させる。
- ・地元の中学校保護者や役場に協力頂き、年に2回実施していた学校評価アンケートを、実施方法や時期などを考慮して年1回とし、協力者の負担を減らし、回答率が上がるように工夫し、より精度の高い学校評価を目指す。